

平成 27 年度 緑の交流サロン報告 第 1 回



日時：平成 27 年 9 月 30 日（水） 13：45～16：30

場所：川崎市総合自治会館 ホール

参加団体（人数）：25 団体（43 名）

行程：13：45～ 挨拶

14：05～ 講演

14：50～ 休憩

15：00～ たね団子づくり

16：00～ 講師への質問コーナー

16：20～ まとめ



講演：「たね団子とは」

講師：牧野 ふみよ氏（NPO 法人 Green Works）

「たね団子のはじまり」

東日本大震災の被災地で行った、花を咲かせる復興イベントが、たね団子をつくるきっかけになった。花の種を蒔くだけでは種が風で飛ばされたり、種が定着しづらく花が咲かなかったため、種と土と一緒に団子状にするアイデアが生まれた。最初は土に花の種を混ぜるシンプルなものを作っていたが、徐々に改良を重ね、発芽しやすい現在の形になった。

「たね団子のメリット」

■花が育ちやすい

雨風で花の種が飛びにくく、傾斜地などにも植えやすい。団子にいろいろな種類の種をつけて植えるため、花束のような形で花が咲き、見栄えが良い。さらに、まとめて花を咲かせるため、草取りしやすい、といった管理上での利点がある。土に肥料を混ぜることで花の生育を助け、どのような環境でもよく育つ。

■手軽さ、イベント性

今回使用したケト土等がなくても、身の周りにある柔らかい土で作ることができる。

また、団子を作る作業は、子どもから高齢者まで様々な人が楽しめ、人気のあるイベントとなっている。イベント運営上での利点は、室内で作業できるため、天候に関係なく開催できることや、団子を作る場所と植える場所が異なる場合でも対応できることが挙げられる。

「作り方のポイント」

作り方に特に決まりはないため、自由にアレンジして、自分たちのオリジナルのものにしていって欲しい。

■材料、作り方について

団子の大きさや土・肥料の分量には細かい決まりはない。団子 1 個はキンカン大（直径 2～3cm）を目安にしている。花の種をつけすぎると育ちにくいので、注意が必要。市販の赤玉土を使う場合はつぶして細かくするが、GreenWorks では粉状になった廃棄するものをメーカーから譲り受けている。肥料は必ずしも必要ではないが、最後に団子にまぶす粉末の珪酸塩白土は、植えるときに目印になる。

■花の種について

花の種はたね団子に適するものとそうでないものがあり、現在も試行錯誤している。（例えば、ニチニチソウは生育良好、サルビアはあまり育たなかったなど）応用編として、野菜のたね団子作りも行っている。

「作った後は…」

■植える

作った団子は、種がすぐに発芽する状態になっているので、早めに花壇やプランターに植える。植えるときは、団子を平らにつぶして埋める。通常、5 日～1 週間で芽が出てきて、70 日程度で花が咲く。

■活動への反映

たね団子作りは、誰でも気軽に参加し、楽しんでもらうことのできるイベント。花が咲いた後は、花摘みをして、ブーケにするなどの楽しみ方もある。

たね団子づくり

実習として、実際に参加者の方々にたね団子づくりを体験していただきました。

今回使用した花の種は、ネモフィラ、リナリア、カスミソウ、アグロステンマ、ヤグルマソウ、カリフォルニアアポピーの6種類。

材料

- ・ケト土
- ・赤玉土 (小)
- ・団子用肥料 (マグアンプK)
- ・二価鉄イオン水 (メネデル)
- ・珪酸塩白土 (粒状) (ミリオン)
- ・珪酸塩白土 (粉末) (ハイフレッシュ)
- ・花の種
- ・ジップロック
- ・ビニール手袋



完成したたね団子



発芽したたね団子の様子

■作業の様子



材料と作り方の説明



土を混ぜてよくこねる



団子を取り分けて肥料を入れる



花の種をつける

質問コーナー

質問 1. 除草剤をまかれてしまった花壇があり、石灰をまくなどの対策を行ったが、なかなか花が育たない。いつまで待てば良いのか？

- 除草剤をまくと1～2年は草も生えない。3年程度経つと草が生えるようになる。石灰よりも腐葉土や堆肥などの有機質を土に混ぜたほうが良い。

質問 2. マンションで管理している公開空地のツツジ類の生育が悪い。どうすれば改善するか？

- 土にガラが多く混ざっていると思われる。管理会社にお金と時間をかけて対策をとってもらうしかない。

質問 3. ゼラニウムの葉が白くなってしまった。原因と対策を教えて欲しい。

- 肥料不足や植え替え時期の問題ではないか。挿し木して、新しく育てたほうが良いと思う。

質問 4. 花、樹木にとって一番理想的な土壌とはどのようなものか？

- 柔らかくて、ふかふかした土が好ましい。ただし、柔らかすぎても植物の根を支えることができないので、重量感のある土が良い。